学科長挨拶

私たち南山大学外国語学部英米学科が育てたい若者――それは、現在事実上の国際語として広く使われている英語を自在に操ることができる若者、世界各地の社会文化を深く理解できる若者、グローバルな視点から日本の社会文化を見つめることができる若者、そしてこれらの能力を駆使して地域社会と国際社会に貢献できる若者です。

英語が話せるだけでは駄目。相手に伝えるメッセージの中身を充実させなければ、せっかくの英語力も活かすことができません。

日本の文化にどっぷり浸かっているだけでは駄目。今は多くの文化が時にはぶつかり合い、混ざり合う時代です。世界各地の社会文化について学び、国際感覚を身につけ、多文化社会の中でも自らのアイデンティを見失わずに未来に向かって歩んでいくことが大切です。これに加えて、日本的な奥ゆかしさ、控えめの文化とは異なる「自ら発信していく」姿勢、そして積極的に何かを企画・運営していくチャレンジ精神も必要です。

私たちが文部科学省のGP(Good Practice 優れた取組)として支援を受けている「多文化社会における英語による発信力育成～グローバル時代に活躍するための多元的学士力向上プログラム～」は、海外の大学との国際交流を通じて、日本の大学生の潜在能力を最大限に引き出そうとする、国際性豊かな「南山だからできる」挑戦であると言えるでしょう。

このプロジェクトのイベントの多くは一般公開されており、みなさんも私たちの学生と一緒に実際に体験することができます。また、私たちの活動は、ホームページ(http://eibei-gp.nanzan-u.ac.jp/)で逐次報告していきます。

南山大学外国語学部英米学科生が、磨き上げた高い英語力と若者ならではの「大胆さ」を武器に、失敗を恐れず、世界に向けて英語で「発信」していく姿をご覧ください。

学生企画・運営委員会

Shizuka Kato

私にとってGPは、「アイディアを形にできるコミュニティ」です。講演会などは、みんなでアイディアを出し合って企画・運営するので、大きな達成感が得られます。また、GP委員は1年生から4年生までいるので、普段はなかなか交流できない上級生とも仲良くなることができます。「キャンパスライフを充実させたい!」「たくさんの人と交流を持ちたい!」という方には、是非参加してほしいです。

Yumi Saito

The reason I joined the GP program is that it would mean a lot to me. For example, this is my junior year and most of my friends are having a hard time with job hunting. As for me, I'm thinking of attending graduate school, so I'm not looking for jobs. Instead I'm trying to do something academic like reading books related to my major, American history. I want to attend special colloquia and workshops to learn while improving my ear for English, so this program will be helpful. Also, I would love to use English more, and this program is a good way to do that because we use English to communicate with each other and post things on the web in English. Moreover, I don't have friends younger than my grade. I heard that a lot of members aren't the same year as me, so I want to talk with them ☺ Also, I want to be friends with teachers too! ☺ I want to take part in studying in Hawaii if it's possible! I want to learn racial issues there such as civil rights held by native Hawaiian people.

NANZAN UNIVERSITY

英語で考え議論する力を－「英語」で「世界へ発信」

外国語学部 英米学科
Department of British and American Studies, Faculty of Foreign Studies

南山大学外国語学部英米学科では、英語“を”体系的に学ぶだけでなく、英語“で”様々な専門分野について学び、考え、議論することで、多文化共生が進むグローバル社会の第一線で活躍できる、優れた語学力に加え、十分な異文化対応能力と国際力を備えた人材を育成します。

何を学ぶ

グローバル社会の第一線で活躍できるよう、優れた語学力に加え、十分な異文化対応能力と国際理解力を培って欲しいと考えています。英語だけでなく、その他の言語、フランス語、ドイツ語、スペイン語、ポルトガル語、中国語、韓国朝鮮語など計9ヶ国語の中から1または2言語を積極的に学ぶことも必修としています。

どう学ぶ

1･2年次には毎日英語で「聞く･話す･読む･書く」の訓練を徹底的に行い、3･4年次では専門の言語学や文学、外国語教育、コミュニケーション、思想、政治、経済、外交、歴史、社会など、それぞれの学問分野の研究に取り組みます。3･4年次の科目は英語と日本語の両方で学べるようになっており、4年次の終わりまでには英語で専門分野での討論ができるようになります。

目指す人物像

英語を体系的に学ぶだけでなく、英語で様々な専門領域について学び、考え、議論する力の養成を重視しています。言語学、コミュニケーション、英文学、英語教育、アメリカ研究(文学、歴史、外交、政治、経済)などのクラスでの専門学習を通して、十分な異文化対応能力と国際理解力を身につけて欲しいと思っています。そして多文化共生社会の中で活躍できる人材の育成を目指しています。

南山大学外国語学部英米学科　大学教育推進GP 事務局
〒466-8673　名古屋市昭和区山里町18
Phone: 052-832-3278(直通)　Fax: 052-832-3279
URL: http://eibei-gp.nanzan-u.ac.jp　MAIL: info-eibei-gp@nanzan-u.ac.jp

Nanzan University
Department of British and American Studies

平成21年度 文部科学省 大学教育推進プログラム採択

多文化社会における英語による発信力育成

グローバル時代に活躍するための多元的学士力向上プログラム

学長挨拶

本学外国語学部英米学科における取り組み「多文化社会における英語による発信力育成―グローバル時代に活躍するための多元的学士力向上プログラム―」が、平成21年度大学教育・学生支援推進事業【テーマA】大学教育推進プログラム（文部科学省）に採択されたことを学長として大変うれしく思っています。南山大学外国語学部英米学科は、優れた語学力にくわえ、多文化・国際理解力を備えた人材を育成することを目標としています。

本取り組みはこの目標にさらなる発展をもたらすものであり、具体的に3つの特徴を有しています。

1. 「読む・書く・聞く・話す」のその先を目指し、大学院レベルではなく、「学部レベル」において専門的な内容を世界に発信していく「挑戦」であること。
2. インターネットという現代のツールを使いつつ、しかし仮想体験ではない「実体験」を重視して真の国際理解を目指すプログラムであること。
3. 英語力向上のプロジェクトであると同時に、学生の「企画・運営力」の育成も目指しているプロジェクトであること。

本取り組みにおいて学生は、海外提携校からの教員および学生の招聘による国際ワークショップの開催、海外提携校での合同開催シンポジウムにおける発表、それらのワークショップ・シンポジウムの学生主体による企画・運営などを体験することになります。

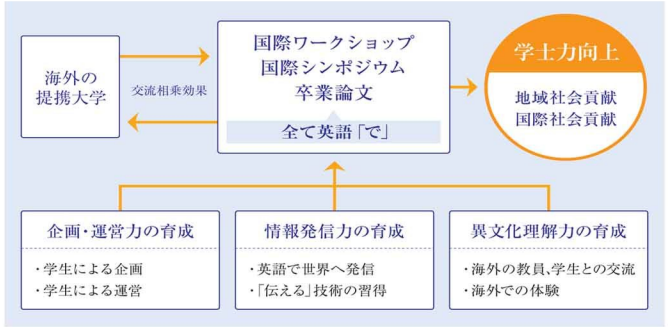
それらをとおして、実体験に基づく異文化対応能力・国際理解力、英語を使用言語とする情報発信能力、主体性のある企画・運営力を多元的に習得することが強く期待されます。

本学は「語学の南山」として絶えざる自己改革という挑戦を続けていますが、近年はさらなる国際化をめざし、全学部において、英語「を」学ぶ、から、英語「で」学ぶこと、また、学生のみならず教員、研究者も含めた双方向での交流を重要視しています。

国内外において学生および教員の相互交流をおこなう本取り組みはその目的を推進するものであり、また、学部レベル（学部学生）におけるワークショップ・シンポジウムの企画・運営や、研究成果の世界に向けての発信という「挑戦」は、本学グランドデザインにある絶えざる自己改革の一翼といえるでしょう。本取り組みは優秀な学生が集う「南山だからできる」プロジェクトであり、また、学生の実力を最大限に引き出すものであると大いに期待しています。

南山大学長　ミカエル・カルマノ

GPにおける取り組み



本取り組みには、三つの大きな柱があります。それぞれ「企画・運営力の育成」、「情報発信力の育成」、「異文化理解力の育成」となっています。これらの力をもって、学士力の向上をはかり、地域社会へ貢献し、また国際社会にも貢献する人材を創出していこうというものです。

これは、私たちの学科が掲げる「多文化共生が進むグローバル社会の第一線で活躍できるよう、すぐれた語学力に加え、十分な異文化対応能力と国際理解力を備えた人材を育成すること」という目標とも合致しています。

GP Special Events

Thesis Introduction Presentation

2009 11.4

情報発信力の育成において中心的な役割を果たす卒業論文中間発表会は、これまでゼミ単位で行われてきたものを2008年度に初めて学科行事として行いました。この行事は学生が中心となって企画・運営され、すべて英語で行われました。本取り組みでは、今後これをさらに充実させ、Web公開していきます。

Immigration Issues as Seen through Comparisons between Japan and America

2009 11.20

Mr. Akihiro Okumura

世界のグローバル化に伴い、各国が直面する大きな問題の一つである移民問題。日米の移民問題をテーマに、これからの移民政策の在り方について3人の講師の方々をお招きし考えました。講演会の最後には、英米学科の学生3名（Ayumi Moraes・2年、Tian Yun・2年、奥村彰浩・4年）が代表となり質問をし、大変有意義な場となりました。

Dr. Erin Chung, Panelist

The Nanzan University workshop was well-organized, well-attended, and lively. I found the students to be engaging and intellectually sophisticated. The student commentators, in particular, made the workshop especially effective as they not only offered thoughtful commentary on each talk, but also stimulated questions and comments from the audience. Although the audience members who asked questions were articulate and well-versed, perhaps more audience members would have participated had they been encouraged to ask their questions in Japanese if necessary. Overall, I was very impressed by the organizers and students who participated in the workshop.

Ayumi Moraes, Student Questioner

Before this symposium, I did not know there were people doing research on immigration related subjects, so it was very interesting for me, as an immigrant in Japan.I was happy to learn that Dr. Chung was doing some research concerning the Brazilian community in Japan. I also learned that compared to the immigration policies in Korea, Japan is behind in terms of accepting immigrants as part of the nation. I asked Erin what she thought about Japan making good use of the immigrants labor force when it was needed then getting rid of them now when Japan is in recession. She confirmed what I thought was the reality-Japan may open its doors for immigrants widely but it will take time.

Meet An American Diplomat

2009 12.12

Mr. Jonas D. Stewart

2009年に起こった日本とアメリカ両国での政権のCHANGE。アメリカはどこへ向かうのか、そして日米関係はどのような形を取ろうとしているのか、名古屋アメリカンセンター館長、Jonas D. Stewart 氏を迎えて考えました。第2回のワークショップでは、英米学科に所属する、長谷川あさみ・4年、成田美佳子・3年、柴田華代・4年の3名が代表質問者として参加しました。学生同士が事前に準備を行い、大変充実したワークショップを行うことができました。

Aya Murray, GP Project Director

Mr. Stewart's workshop was very insightful, informative, and kept the audience interested. It served as an excellent example of the use of visual aids and also with understanding the audience you are speaking to. As a GP workshop, I was especially excited to see our students actively asking questions that were well thought out during the Q&A time. Overall, I felt it was an ideal workshop where students could interact with the speaker quite freely.

Condition B as an Epiphenomenon

2010 1.18

Dr. Christopher Tancredi

生成文法では、Chomskyが1981年に提案した理論により、名詞句を「照応形」「代名詞」「指示表現」という3種類に分類し、それぞれが、いつ使用できるのか、について条件A、条件B、条件Cの3つの条件（「束縛条件」）を用いて説明してきました。Tancredi 氏は、最新の言語理論の視点からこれを見直し、代名詞に関する「条件B」は束縛条件として仮定する必要はないことを提案して下さいました。

Shizuka Kato, GP Student Member

The lecture's topic was "Condition B as an Epiphenomenon". It was about generative grammar. This lecture was a little difficult for me to understand. However, Professor Tancredi was smiling from beginning to end. His gentle smile made me feel relaxed.

Special Guest Lecturers from Hawai'i

2010 2.22

第2回講演会では、現在ハワイ大学で進められている第一・第二言語獲得の最新の理論と実証的な研究を紹介していただきました。講演会の冒頭では、学生運営委員である宮川孟（英米学科3年）により、GPの取り組みついて英語でのプレゼンテーションが行われ、これまでとはまた違った講演会の場を演出することができました。

Dr. Bonnie Schwartz　Dr. Kamil Deen　Mr. Hajime Miyagawa

Ayaka Kojima, GP Student Member

Through the lecture of Dr. Schwartz, we learned that although people go through different processes for second language acquisition and first language acquisition, we achieve to the same language skills in the end.
講義を通して、第二言語習得と第一言語習得では違う過程によって言語を習得していくが、最終的には同じスキルに達することが分かりました。

Now, our GP students are studying English as a second language at Nanzan University. So from this lecture, I felt inspired to really improve my English skills in order to reach the native speakers' level.
今、英語を第二言語として学んでいる身としてさらに英語力を向上させ、ネイティブに近付けられるように日々努力することが大切だと思いました。

Shiori Nagata, GP Student Member

It was my first time to take the lecture of linguistics; therefore, everything was new and interesting. Especially, I was interested in two things: 1) the fact that all human beings have been blessed with the ability to use language and 2) the grammatical differences between English and Thai in the process of gaining languages. Although the content of the lecture was difficult, I enjoyed it. I felt that learning linguistics is complicated and profound.
言語学について初めて受講したので、全てが新しくておもしろかったです。特に、生まれながらにして言語能力が備わっているという事実と、言語を習得していく過程で英語とタイ語に文法的な違いがある、という二点に興味を持ちました。講義の内容は難しかったけれど、楽しめました。言語学は複雑で奥が深いと感じました。